

2025 年 4 月 27 日（復活節第 2 主日、C 年）

牧師メッセージ

「疑いの先の信仰告白」

（ヨハネによる福音書20:19-31）

司祭ヨセフ太田信三

「その日、すなわち週の初めの日の夕方」とあるように、今日の場面は主イエスの復活の日の夕方です。同じ日の朝、主イエスは復活しました。しかし、弟子たちはすぐにそのことを信じることはできませんでした。しかし、信じることはできなかった弟子たちの真ん中にご復活の主イエスは現れ、「あなたがたに平和があるように」と言いました。裏切り、信じることもできなかった弟子たちを叱るでもなく、平和があるようにと、赦しと平和をそこに届けました。弟子たちは本当に嬉しかったと思います。救われたと思います。しかし、なぜかそこにトマスは立ち会うことができませんでした。トマスは頑なに主のご復活を信じようとはせず、復活が事実だということの確証を求めました。

私はトマスがいてくれて本当に良かったと思います。トマスのおかげで、信仰の一つの大切なあり様が示されたように感じられるからです。もしかすると、トマスは他の弟子たちがご復活の主イエスに会ったことが羨ましくて仕方がなかったのかもしれない。他の弟子たちに嫉妬するほど主イエスに会いたかった彼は、まるで子どものようにふてくされて、「傷を見るまでは信じない！」などと頑なになってしまいました。私は自らを省みるとき、トマスのように素直に、嫉妬して、ふてくされるほどに主イエスを求めているだろうかと思わされます。何よりも、私たちはトマスがいてくれたおかげで、主イエスの優しさを知ることができます。傷を見るまで信じないと言ったトマスにも主イエスは現れ、ご自分の傷に触れるようにと声をかけました。ここに主イエスの愛の深さを感じずにはられません。その愛に触れたからこそ、「信じないものではなく、信じるものになりなさい」と言われたトマスは、傷に触れるまでもなく、「私の主、私の神よ」と言いました。つまり、トマスは主イエスを「神」として信仰告白したのです。これは、それまでどの弟子たちもしなかった最初の信仰告白です。トマスは疑いました。しかし、疑いの先に主イエスに出会い、その愛に触れ、主イエスへの深い信仰へと導かれたのです。

信仰において、疑問を抱くことは決して悪いことではありません。それどころか、その疑問を主にぶつけるなら、トマスのように深い信仰へと迎えられます。しかし、主に疑問をぶつけぬままに自己完結してしまえば、信仰の旅はそこでストップしてしまいます。